

小学校教師による小5 社会科“森林資源”の教材研究—1枚の写真を通して

紀州の林業を引き継ぐ人々

作成：木村安男（きむら やすお／和歌山県和歌山市立三田小学校 教諭）

寸評：山下宏文（やました ひろぶみ／京都教育大学 教授）*

語り：「—今、伐採されている木は、何年間育てられたのでしょうか。」

紀州の森では、第二次世界大戦後の木材需要の急増にともなってたくさんの杉や檜が植えられ、そろそろ切り出して出荷できる木々も多くあります。この写真の木は植えられてから60～70年くらい経っているのでしょうか。立派に成長した木を、今、まさに伐採しているところです。この作業を主伐といいます。

—この木を育てるため

に、何人くらいの人たちが世話をしてきたのでしょうか。

杉や檜の人工林は、放っておくといい木には育ちません。植林してから数年間は、下草刈りといって、草や蔓を刈り取る作業をしなければなりません。少し大きくなってくると、節のない木に育てるために枝打ちという作業をします。森林に日光を入れたい木に育つように、間伐という作業もします。いい木を育てるためには、いろいろな世話をする必要があります。この写真のような太い木に育てるためには、のべ何百人、ひよっとする



◀長年育ててきた杉を伐採する作業風景

とのべ何千人の人が世話をしたのかもしれない。

—この人は、木を伐採しながら、どんなことを想っているのでしょうか。

森林で働いている人たちは、初めから山の仕事をしていた人たちばかりではありません。他の仕事をしてきたが、山の仕事にあこがれ、紀州の森林で働くようになった人たちもいます。彼らは、森林という自然の中で働くことに、生き甲斐を感じています。今、伐採している木が、これからどのように使われるのか、この木を使う人の顔を思い浮かべながら伐採しているのかもしれない。」

意図（木村）：森林での仕事は、「林業」としてまとめることができる。林業は、木を植え、育て、伐採するしごとである。その中で、紀州の森林を、自然を、守る役割を果たしている。紀州の森林を守るということは、地球の森林を守ることにつながる。森林で働く人たちは、地球環境を守る役割をしているという自負をもって、今日も森林に入っていくのである。

寸評（山下）：「森林資源の育成や保護に従事している人々の工夫や努力」への着目は、新学習指導要領においても引き継がれている。この工夫や努力は長期間に及ぶとともに、世代をも超えていかなければならないものである。そのためには、懸命に森林資源を守り育てている人々の直の姿を子ども達に届けることが重要となろう。

*山下…〒612-8522 京都市伏見区深草藤森町1 Tel 075-644-8219（直通）